

1) 研究課題名: 神経変性疾患の診断における皮膚生検の有用性の検討

2) 研究目的と意義:

現在、医学に関する技術が進歩し、様々な検査技術にも発展が見られてきています。しかし、神経難病と言われている疾患の中には、依然として、神経学的な診察、および生理学的検査、画像診断検査などでは、確定診断が困難なものが見られます。神経疾患の確定的な診断のために、組織病理学的検査という検査が用いられる場合があります。神経の組織（脳あるいは末梢神経）を直接採取し、検査する方法ですが、検査できる部位、および得られる情報量には大きな制約があり、また侵襲性が高いため、限られた疾患のみに行われているのが実情です。

私たちはより侵襲の少ない新しい方法として、皮膚の組織を採取し、検査することにより、神経疾患の補助診断が出来る可能性があると考えております。様々な疾患の患者さんの皮膚を集め、比較検討する事により、確定診断に近づく手がかりを探索することが本研究の趣旨です。

3)研究方法:

本研究の参加に同意をして頂いた患者さんに、皮膚生検を受けていただきます。得られた皮膚組織は、固定液による固定後、スライド標本を作製し、ヘマトキシリン・エオジン染色、さらに各種抗体を用いた免疫染色を含む、各種の特殊染色法を用いて染色した上で、顕微鏡下に精査、検討し、それぞれの疾患の間に見られる所見の違いについて検討します。また、得られた皮膚組織の一部から、線維芽細胞を分離培養し、細胞内各器官を顕微鏡下に観察します。さらに、薬剤を用いた各種ストレスに対する変化を顕微鏡下で観察し検討します。

さらに、これらの検討の結果と、診療録から得られた各種データ（病歴、臨床症候、血液検査、髄液検査、頭部 MRI 画像などの各種検査結果）を比較検討します。

これらの検討で用いられた検体は、匿名化されたまま厳重に保存され、診断、治療効果、予後判定の研究のために使用されます。また、新規に同意を頂いた患者さんに加え、今までに名古屋大学神経内科に各種試料（皮膚生検組織、病理解剖組織、臨床情報、検査結果など）が保存されている患者さんも対象とさせていただきます。

4) 研究機関：名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科

○問い合わせ先

名古屋大学大学院医学系研究科 難治性神経疾患治療学 特任助教 曾根 淳
(電話 052-744-2391、FAX 052-744-2394)

○苦情の受付先

名古屋大学医学部総務課:(052-744-1901)